

LINE友だち募集中



全厚労ニュース

全国労働組合連合会
厚生連

〒110- 東京都台東区入谷

0013 1-9-5

TEL 03-3874-3591

FAX 03-3874-3593

発行日 毎月20日

<https://www.zenkouro.org/>

社会へ訴え看護師不足改善させよう

知って知らせて組織する☆仙台でナースウェーブ



参加者の声☆

第37回看護集会の参加者にインタビューしました。

塚本 泰弘さん（秋厚労副中央執行委員長・看護師）

A 昨年は娘の行事と重なってしまい行けませんでした。今年は全厚労の看護委員となったこともあり、初めてですが参加させていただきました。

B ナースウェーブでは、みんなで白衣・スクラブに着替え現地までパレード。周りからかなり注目を浴びていました。

現地では多くの署名をいただきました。一度通り過ぎてから引き返して署名してくれた人もいました。

私もマイクで看護師の現状、病院や職場の現状などを訴えました。のぼりやプラカードを掲げる人、横断幕を持つ人、署名を書いてもらう人、みんなで協力して大きな声で署名を呼びかけた事が結果につながったのだと思います。

仙台は風が強く、少し肌寒かったですがそれ以上に自分たちも熱気を持って活動でき楽しかったです。全国の皆さん、来年はぜひ一緒に参加しましょう。

降旗 理恵さん（長厚労中央執行委員・看護師）

A 看護師経験は長いものの、看護集会に参加したことはなく、特別報告内容に惹かれました。

B 大変充実した2日間でした。特別報告は、組合の役割や取り組みについての学びが多く、参考にしたい内容が多数ありました。特に、議員要請には感銘を受け、グループワークでも話題に挙がりました。また、仙台駅前での署名活動では、協力していただく難しさを痛感し、個人情



署名班で活躍する降旗さん

報の取り扱いが今後の課題になる可能性があるため、時代に即した方法に変えていく必要があると考えます。

集会後、帰宅途中の長野駅で「あしなが育英会募金」の街頭活動をしていた学生達に目が留まり、募金に協力しました。集会参加者の色々な思いの輪が、形を変えて広がっていくことに期待したいと思います。

小島 健太郎さん（静厚労中伊豆支部看護委員・看護師）

A 昨年横浜で参加した時、勉強になりました。全国の仲間から、職場の厳しい現状や改善活動を聞いて、自分の病院でも活用出来る事例を学びたいと参加を決めました。

B 一日目の秋厚労と茨厚労の厳しい職場環境は自分の病院でも同じだなと思いました。その先の行動をするために、組合の力を借りて、団結して交渉し、行動を起こす事で、職場の環境を変えられること。一人では出来ないことが、組合の力を借りる事で出来ること。これこそが、労働組合の活動なのだと思えました。自分の職場環境を変えるためのパワーをもらえました。

ナースウェーブで、「私も病院で働いてます。大変な状況なのを変えるため、頑張ってください」との声を聴いて、一人ひとりの声を集める大切さを感じました。今後も職場の環境を良くするためのヒントをもらう事が出来ました。

寺本 純子さん（山厚労副中央執行委員長・看護師）

A 興味がなかった訳ではありませんが、関心の矛先が看護分野や領域にばかり目が向いていたので、労働組合は私の中で「誰かがやってくれる他人事」でした。

プラチナ世代の先輩ナースから、55歳以上の処遇について話を聞く機会があり、さて自分もいよいよその世代が目前となってきたので、自ら動いて変えなきゃいけないという熱量を内に抱えながら、執行委員として活動を始めました。経歴としてはまだほんの3年ではありますが、組織で活動することがやがて大きな力となり、診療報酬等を動かす世論となる。このことをジワジワと実感してきた矢先に、山厚労の副中央執行委員長となりまして、その勢いでこの度の看護集会へ、初参加しました。

B そもそもナースウェーブとは何ぞやと言葉の意味すら知らずにいた私です、看護集会で行われる学習会でその意味を学び、即日、白衣に着替えて街頭へ。横断幕やプラカードを掲げビラ配りと同時に署名活動。「看護師が不足している！」「ご協力お願い致します！」と、道ゆく方々に声をかけながら、懸命にPRをしました。足を止めて下さる方の中には、「私たち看護学生です。頑張ってください」と、学校帰りでしょうか。数人の将来のナース仲間となる学生さん達が、署名をして下さいました。ナースウェーブの意義を理解してもらえらる機会に、ほんのひとかけらの興味を示してもらえた事は、大変喜ばしい気持ちでした。



グループワーク後の発表をする寺本さん

他人事だった私がこの活動を通して、「自分事だよ」と誰かに伝え続けることの必要性を、強く実感できた参加となりました。ありがとうございました。



昨年も参加し慣れた様子の小島さん

10月17日から2日間、JALシーティー仙台にて全厚労第38回看護集会を開催。14県80名が参加しました。

今集会では、講師による学習講演ではなく、「実例から学ぶ 看護師の賃金労働条件向上と組合の役割」と題して4本の特別報告を行いました。報告は、①秋厚労・島輝輝書記長「ハラスメント対策の取り組み」、②茨厚労・井頭健一中央執行委員と吉井京湖書記長「看護団交の取り組み」、③三厚労・前川豊彦支部看護委員長「看護委員会活動報告」、④広厚労・徳本美由紀副執行委員長「広島・吉田病院の議員要請と財政支援」で、各ブロックから1県ずつ担当しました。現場で実際にやっている取り組みということも

あり、その成果はもちろんの事、運動を推進する中での障壁や、困難を乗り越えた経験などの生々しい話に、参加者が真剣に聞き入る姿が見られました。

今年で3年目になるナースウェーブは、仙台駅西口で行い、宮城県医師連から応援と宣伝物資支援も頂きました。30分の署名宣伝行動で増員署名248筆を集めました。看護学生や、介護を専攻している学生たち、看護師の親御さんなど、エールの言葉と共に快く署名をしていただくことができ、宣伝行動を終えた参加者からは「初めてだったけどやってよかった」「看護師頑張つてと言ってもらえてとても嬉しかった」「自分の病院の看護師全員と一緒にやりたいと思った」などの感想を頂きました。

現場は限界「スピード感ある対応を」

25秋・厚労省交渉で医療・介護労働者の処遇改善訴え

医療・介護施設への対応は待ったなし

11月4日、全厚労は秋闘

全国キャラバン前半を終え、中央執行委員会と厚労省交渉を24名の参加で行いました。

初の女性首相となった高市早苗氏が所信表明演説にて「診療報酬改定を待たずに、経営の改善および従業者の処遇改善につながる補助金を措置する」といった



要請書を手渡す岩本委員長

に追いついていない医療・介護労働者の実情や、光熱費増・物価変動に対応した公定価格（診療報酬）のスライド制の導入を新たに求めました。また病院薬剤師の不足について配置基準の引き上げと、診療報酬の引

上げの要求。「ベースアップ評価料」の抜本的改善と恒常化、「看護職員処遇改善評価料」の整理・統合と現場の分断解消、介護分野の処遇と基盤強化等について求めました。



(要請書の詳細)

労働者の手元に届く政策を

容や交付時期についての明言はありませんでした。岩本執行委員長は、前年度の「生産性向上・職場環境整備等支援事業（許可病床数×4万円）」給付金も届いていない状況や、年末一時金について「経営者からは赤字と言われ、医療従事者が安心して年末年始を過ごせるかは助成金にかかっていると言っても過言ではない。迅速に対応していただきたい」と発言。要請

団からも、公的医療機関でもっとも人口密度の低いところを担っている厚生連にとって医療収益での純利益はほぼ無く、自治体からの補助金や特別交付金を貰って運営していること。中山間の働き手は不足し、来

看護の担い手不足 危機感をもって

現場実態の把握と政策反映の要求では、厚労省へ医療労働団体や学会等と協働し、夜勤実態や離職要因などの調査を実施し、診療報

すべての都道府県で 千円越え

25年度の地域別最低賃金は39道府県で国の審議会が示した引き上げ額の目安を上回り、最高額1226円（東京）と最低額1023円（高知・宮崎・沖縄）と金額差はあるものの、地域間格差の解消をめざす流れが強まっています。

一方で発効日の大幅な先送りが急増し、11月以降の発効が27府県、秋田県では26年3月末からの発行と、新たな地域間格差が生れています。



(全国最低賃金一覧・厚労省HP)

ドクター山本晴義の心の相談室（16）

1日1度は外出し心身の健康守ろう



山本晴義先生

近年の地球温暖化の影響で、日本の特徴でもある「四季」が「二季」に近づいているとも言われています。今年も9月以降、真夏の暑さが続きましたが、10月半ばからは一気に冷え、秋を感じる時期がほとんどないという状況でした。

皆さんの中には、夏の間、暑くて外出を控えていたら、今度は寒くなってきた、いつの間にかすっかり家にこもりきりという人もいらっしゃるのではないのでしょうか。外出の機会が減ると、気

がつかないうちに、体力低下を引き起こします。体力は年齢と共に自然に落ちるものですが、運動不足や食事・睡眠が十分にとれていないことも影響します。外に出ないと体が疲れないので、食欲もわかず、なかなか眠くならない悪循環を招くので気を付けましょう。

下を放置するとメンタル面への影響も免れません。まずは、少しずつでも動くことを心掛けてみましょう。1日に1度は必ず、散歩をする。宅配ばかりでなく買い物に行く。いつもの店より遠い店にわざわざ行くなどで構いません。また、強い意志がなくても、続けやすくなるよう、環境を整えることに力を注ぐのがポイントです。例えば、散歩に出やすいようにコートを玄関に用意しておく、散歩の時間を決めてアラームを鳴らす、一人でできないなら、誰かと一緒に、散歩にでたら小さなごほうびを用意するなど、自分できそうな方法を選んでみてください。

酬に反映させることを求めました。

厚労省は「ナースセンタ―登録データに基づき継続的に状況を把握している。医師についても勤務実態の把握調査等を実施している」とし、看護師の離職に

ついて「厳しい状況の中で働かれていることは重々承知している。復職支援の実態把握をしながら実際に働く現場の皆さんに丁寧に対応していきたい」と話しました。

参加者からは、看護師が新しく入ってきててもやめしてしまう実態や、看護学校の定員割れや閉校で担い手不足の状況を訴えましたが、担当官は「学生を確保する

担当ではないので明確な回答は難しい」としながらも「どのような対策がとれるのか検討をすすめている」と話しました。

現場と、診療報酬改定を議論する中医協に乖離があることから、最大の医療産

別である日本医師連の推薦の機会を求め、医療・介護現場で働いている労働者の意見が出るような検討してほしい旨を伝えました。

岩本委員長は「迅速に対応してくださることが必要。我々と目指す方向は同



地域の実情を伝える参加者

頑張る仲間

各県

この人

各県・現場で運動に、趣味に、仕事に頑張る人々を紹介するコーナーです。
第211回は茨城・広島にお願いしました。



茨城 飛田広大さん

茨厚労で書記長を務めている飛田です。
私は水戸協同病院で理学療法士として勤務し、主に整形外科やスポーツ領域の患者様を担当しています。
組合では「働きやすい職場環境とは？」を考えながら活動させていただいております。
MBTIは ENFJ-T (指揮官)。趣味はサーフィンとピラティスです。アラフォーに近づくと同時に衰えを感じ始めたので、言い訳せずに自分の身体と向き合う時間を作っていきたいです。少しでも「働きやすい職場づくり」に貢献すべく組合活動に取り組みます！



広島 菅原直秀さん

皆様、はじめまして。来年度から広厚労広島支部で書記長を務める予定の菅原直秀と申します。広島県西部にあるJA広島総合病院で臨床工学技士として勤めています。
本格的に2024年度から組合活動に携わっており、未熟ではありますが、周囲の皆様の手伝いながら組合活動のサポートにあたっています。
JA広島総合病院を含む県内3病院では「ハラスメント撲滅宣言」を掲げており、ハラスメント問題の大小に関わらず、発生した事象については職場と共に真摯に向き合い、誠実に対応していきたいと考えています。
今後とも日々精進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

読者の声
今年は猛暑続きでしたが、最近では朝晩涼しくよく眠れるようになり、食欲も出てきて秋を感じています。(福島)
秋を感じ始めてすぐに冬到来？今年は寒くなるのも早く秋は何処に行ったのだろうか？熊出没増と何か関係あるかも？(KU)
秋といえば食欲の秋！美味しいレシピを漁る日々です。毎晩の献立を考える主婦になんかおすめのレシピ教えてください！(広島)
秘伝のレシピをお伝えします。いつもの炒飯に、

ともあって、前々から労組のいいところや必要性を伝えていたのですが、リクルート成功しました！やったあ！(茨城)
素晴らしいリクルートですね！後輩の未来に安心感という名の保険をかけてた先輩は組合の救世主です！労組パワーで、ますます良い職場に。(HL)
秋といえは食欲の秋！美味しいレシピを漁る日々です。毎晩の献立を考える主婦になんかおすめのレシピ教えてください！(広島)
秘伝のレシピをお伝えします。いつもの炒飯に、

ちくわを小さく切って追加。味付けは白だしのみ。誰にも教えないでください★(OK)
自民党総裁選で候補者が物価高対策、賃金上昇を挙げたが医療職は賃金が上がりにくい仕事です。中央から地方から声を挙げて働き続けやすい環境や賃金になっていくよう労働組合の活動を継続してもらいたいです。(岐阜)
ただいま「全国キャラバン」等で「動いて動いて動いて」います。一緒に動いていきましょう。(MT)

助けあいの医労連共済で仲間を増やそう

医労連共済は、組合員・家族を対象とした労働組合の助けあい制度です。職場の仲間を対象に共済説明会を開催して、暮らしの備えに安い掛金・大きな保障の医労連共済への加入を勧めましょう。

加入者からの声 ◆毎月「お守り」のつもりでかけています。今まで、台風で屋根瓦がずれた時や、入院・休業の際に給付をいただきました。民間保険は営利目的重視が当たり前です。助け合いの精神が一番有利だと思っています。
◆切迫流産で2カ月病休となりました。夜勤手当や時間外手当がもらえなかったため、今回の給付はとても大きいものでした。妊婦さんが何かあってもこういった制度があることで、皆さんが安心して休むことができるのだと感じました。



労働組合用語集

ILO(あいえるおー)：国際労働機構の略称。第1次世界大戦後、国際連盟の機関として設立。第2次世界大戦後、国際連合の専門機関となる。ILOの構成と運営は、労働者・使用者・政府の三者からなり、国連加盟国の労働条件、生活条件の引き上げについて基準として条約を定め、条約を批准した国に対して勧告を行うことを任務としている。採択された条約・勧告は各国で適用、法制化されなければ意味をなさず、ILOでは適用状況の審査・条約批准促進の仕組みを設け、各国政府はその基準の国内適用について報告をILO事務局に提出しなければならない。

教宣部のつぶやき

首相は、補助金を2025年度補正予算案に盛り込むことを今国会で成立させる方針だ。「改定を待たず経営の改善や職員の処遇改善につながる措置を講じるなど、スピーディに対応する」と強調した。全厚労のキャラバンも準備期間が短かったかもしれない。しかし、今大切なのはスピード感だ。救急対応は医療だけではなく、経営にも必要なのだ。(AK)

当選者(読者の声掲載者含む) 15名様に図書(クオ)カードを差し上げます
答えと本紙の感想などを添えて下記先へお送りください。当選の結果は発送をもって代えさせていただきます。9月号の答えは「アキノヨナガ」で、当選倍率は4.1倍(クロスワード・聞かせて、読者の声計15名当選)でした。

ザ・クロスワード
出題▶モロズミ勝

1	2	3	4	5	6
7			8	9	
10	11	12			
13	14	15	16		17
18	19	20	21	22	23
24		25	26	27	
28		29			

【問題】二重ワクの文字を、A～Fの順に並べてできる言葉は、なに？

【タテのカギ】
1 クリスマスに使う樹木
2 革へんに化と書いて？
3 雲雀って読めますか？
4 2026年の干支
5 RCサクセションの曲
6 「……は買わない」
7 ……も老いては驚馬(どば)に劣る
8 がま口もこの一種です
9 姫路……不夜……
10 ……ツリー
11 ……絵……風呂
12 楽しくて面白い様子
13 11人でキックオフ
14 忠臣蔵の……四十七士
15 慰め樂しませる……会
16 米……に釘
17 羊歯って読めますか？

【ヨコのカギ】
1 めあて。……を定める
2 鯉の……登り
3 セリ科の多年草、葉の数は3枚
4 金太郎がかつぎます
5 世間一般の人々の耳
6 旧称はペルシャ、イスラム共和国です
7 桜と共に日本の国花
8 ……掛け。……だんす
9 対義語は「沈降」
10 海外旅行後の……ボケ
11 壬申(じんしん)の乱が起きた……時代
12 夜のまだふけないころ
13 神社にある一対の像
14 海馬と書く海獣
15 もちつき道具の一つ
16 暦。来年は2026年



全国キャラバン

北信越から関東・東海へ 7県を走破

県も危機感、国・政府へ要請強め

全厚労25秋・全国キャラバンは、新潟・富山から長野に繋ぎ、茨城・とりで医療センターの病院祭を経て、神奈川、岐阜、静岡を訪問しました。11月13日までの要請行動を紹介します。

新潟市長会として各市へ医療現場の声を伝えたい

10月17、18日、仙台での看護集会を終えた大栗書記長は、翌週、新潟・富山・長野の北信越3県を駆け足で廻りました。

10月22日の新潟県要請では、新厚労役員2名と県地域医療政策課を訪れ、医療経営の深刻さと退職者の増加などの切実な実態を訴えました。県でも地域医療確保のため、あらゆる手を尽くしていることが話されました。市長会・町村会では、新潟県の広域性や地域差間

題への言及があった他、全厚労から提供した「一言メッセージ」からの提言書や「現場の声」を各首長へも共有すると明言されました。また要請行動は地元紙の新潟日報でも報道されています。

翌23日の富山県要請では、富厚労役員3名とともに県庁・市長会町村会を訪問。医療政策担当と医師・看護師確保担当の課長に対応してもらいました。

富山県では、市部と多くの中山間地を抱える中で、人口減少と働き手不足で、医療サービスの維持が困難であることに悩みを抱え、



新潟・地域医療確保室長へ要請書を手渡す



長野・県の担当者としっかりと懇談

全国地方自治体として国・政府に要望進める

県としても厚労大臣への要請などに取り組んでいることが話されました。



茨城・とりでのふれあいまつりにて

10月24日には隣県の長野県に向かい、長厚労役員3名とともに医師・看護師確保対策や介護支援に関わる課の課長補佐らと懇談しました。要請団からは医療が教育や買い物等の生活インフラであることや自治体の財政力と補助金の額によって病院の経営状況に格差が生じていることなど、構造的な問題を訴えて全国知事会

会長となった長野県知事の活躍に期待を表明しました。

また市長会・町村会との懇談では、「来年6月の診療報酬改定待ちでは耐えられないと言

「現場の声」が世論動かす

11月1日(いっひ)、「いのちまもる長野県民集会」

11月1日、長野県内の医療関係団体などでつくる実行委員会主催の「いのちまもる県民集会」が開催されました。全厚労全国キャラバンの想いと一緒の企画で、長厚労も積極的に参加、運営にも関わっているとのこと、大栗書記長が行ってきました。



スタンディングする長厚労のみなさん

集会は、長野市のアクティヴホールにて13時の文化行事から始まりました。長厚労OBも参加する演奏楽団ミルク&カウボーイズの演奏後、基調報告やリレートーク(村会議員、難病や障害者団体、県介護福祉士会会長、県看護協会会長、臨床研修医等々)がありました。

記念講演では、日本医療総合研究所研究委員の寺尾正之さんから「医療・介護の基盤インフラを充実し、安心できる地域づくりを」というタイトルでお話いただきました。寺尾氏は「現行の医療政策は、意図的なシステム縮小を前提としており、その構造的欠陥が医

う声が全国である。公立・公的病院への支援は重要だと、要望書をまとめ11月に県や国会議員、省庁に要請していく」との力強い話がありました。

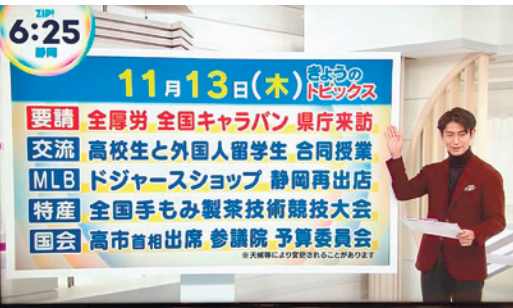
なお長野では、業界紙の医療タイムス社と日本農業新聞信越支局から取材を受けました。

コロナ禍後、再開2年目の病院祭にて署名宣伝行動も

25日、長野から茨城へ向かい、とりで総合医療センターで行われている「第28回ふれあいまつり」に参加し、全国キャラバンのアピールと署名宣伝行動に合流してきました。病院祭はコロナ禍で中断し、今年で復活2年目のこと。署名コーナーでは、増員署名12



岐阜・要請後、県の担当者とも記念撮影



静岡・朝の番組で全国キャラバンをお知らせ

所閉鎖等の問題を強く訴えました。

地元マスコミの反応も上々世論の高まりに期待！

11月4日には全厚労中執による秋の厚労省交渉(2面詳報)を行った後、全国キャラバンは東海ブロックに入り、岐阜県へと向かい

療崩壊リスクを高めている」と、その政策設計の歪みを正すには、「社会保障はコストではなく、戦略的投資と捉えるべき」「改革の力基は、危機にある医療・介護の実態を客観化して、事実の重みで声を上げる人の裾野を広げ、行政・国に迫ること」だと訴えられました。

参加者は、集会終了後、長野駅へ移動し、「いのちまもる」アピール行動を展開しました。たくさんの方の長厚労メンバーも手際良く署名・宣伝行動に動いていました。

ました。11月6日、岐阜労役員4名とともに、市長会・町村会との懇談を行った後、県庁に向かい要請。担当者へ、医療・介護人材流出の課題や医療機関の赤字状況等について訴え、スピード感ある支援措置を求めました。ここでもマスコミ2社から取材を受けました。

11月13日、静岡県の市長会・町村会懇談と県要請を行いました。要請団は全国的にも経営の厳しい静岡県厚生連の状況や現場の処遇実態を伝え、県の支援強化を訴えました。また静岡では、日テレ系列のテレビ局に、「今日のトピックス」コーナーで、「全厚労が医療・介護報酬のアップ求めている」と事前報道をしていただきました。